



富田東口を示す道標

大正6年(1917)に地元の人々によって建てられた道標です。当時東・西・南にはすでに道があり、北の駅前通りは大正13年(1924)の摂津富田駅開設に合わせて開通したもので、道標に刻まれた「開通(※)」の意味は定かではありません。

道標裏側(西面)刻まれた「富田東口」は400m東の当時の富田集落の東端と思われます。かつては修験道(しゅげんどう)の聖地・大峰山を信仰する嘉永3年(1850)建立の石燈籠がありました(現在明田町に移設)。

そのまま東進して大塚から渡し船で枚方に通じていました。

高槻市

※大正6年本照寺東門から筒井池に中之橋が作られ清蓮寺寺東側に道が作られた。それを開通という意味だそうです。

富田駅前道路の整備

- 1) 現在の清蓮寺前から阪急踏切までの「富田芝生線道路拡張」については、平成23年「富田まちづくり委員」が中心になり、道幅5間(9m)を10間(18m)道路を提案し、令和3年3月末完成しました。
- 2) 同じく、阪急南側道路に歩道2mの整備も提案し同じく令和3年3月末完成しました。